

氏名 (法人にあっては名称)	中国電力株式会社
住所	広島県広島市中区小町 4－3 3
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 3 年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) ☐ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) ☐ (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	主として管理事務を行う本社等 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：3300)
事業概要	昭和26年設立、広島市内に本社を置き、中国地方5県を中心として電気事業を行っている。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	16,660 t-CO ₂	16,329 t-CO ₂	16,647 t-CO ₂	17,114 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	0.1 %	-2.7 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*6)		16,329 t-CO ₂	16,647 t-CO ₂	17,114 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	0.1 %	-2.7 %	%	%
実績に対する 自己評価	基準年度と比べ冷暖房機器の使用増等に伴い実績の排出量が増加した。 引続き省エネ機器の導入、節電により排出量温室効果削減を目指す。					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素（エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの）、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置は以下の通りである。

- ・空調設備の実績を踏まえた効率的運転の検討および実施。
- ・照明の部分消灯、LED化、不要時消灯徹底。
- ・温水洗浄便座の暖め、温水機能の停止。
- ・「エコ・オフィス実践行動プラン」に基づいた取り組みの実施。
- ・高性能ガス回収装置使用による、遮断器点検・取替時のSF6ガスの排出抑制および再利用を実施し、令和5年度の回収率は当社全体として、点検時99.6%、廃棄時99.6%となった。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

実施した環境配慮に関する当社全体におけるその他の取組は以下の通りである。

- ・供給安定性・経済性に優れる石炭火力を将来にわたって活用していくため、「高効率化」と「低炭素化」に資する技術として、電源開発(株)と共同で設立した大崎クールジェン(株)によりCO2分離・回収型IGFC(石炭ガス化燃料電池複合発電)の開発を実施しました。そして、2023年度にはカーボンニュートラルの実現に向けて、石炭と木質バイオマスの混合燃料ガス化技術開発に着手しました。また、カーボンリサイクル技術として、Gas-to-Lipidsバイオプロセスの開発やトリプルリサイクル技術の開発(CO2-TriCOM)に取り組んでいます。
- ・発生量の多い石炭灰について、Hiピーズ(石炭灰造粒商品)等により土木材料へ有効利用を行い、98.8%を再資源化した。

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、ワセツクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 小町ビル
事業所の所在地	広島市中区小町 4－3 3
事業所の業種	主として管理事務を行う本社等
事業の概要	主として管理事務を行う本社事業所である。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和 3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4, 209 t-CO ₂	4, 125 t-CO ₂	4, 222 t-CO ₂	4, 206 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2. 0 %	-0. 3 %	0. 1 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		4, 125 t-CO ₂	4, 222 t-CO ₂	4, 206 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2. 0 %	-0. 3 %	0. 1 %	%	%
実績に対する 自己評価	引き続き空調設備の効率的な運用を実施し温室効果ガス排出量の削減に努める。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

2023年度中に実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置 (空調設備) ・空調設備の運転実績に基づく効率的運転の検討および実施 (その他) ・昼休み・残業時等の不要な場所の照明消灯 ・近隣階への移動時の階段利用 ・退社時にはパソコン等のコンセントを抜く 等

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

2023度中に実施した環境配慮に関するその他の取組 ・事務用紙使用量の削減・リサイクル実施 ・グリーン製品の積極的な購入・使用 ・廃棄物の分別の徹底・再資源化の実施 ・社員に対する環境教育の実施

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 宇品ビル
事業所の所在地	広島市南区宇品西4丁目4番33号
事業所の業種	主として管理事務を行う本社等
事業の概要	主として管理事務を行う事業所である。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	5,775 t-CO ₂	5,660 t-CO ₂	5,321 t-CO ₂	4,858 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	7.9 %	15.9 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		5,660 t-CO ₂	5,321 t-CO ₂	4,858 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	7.9 %	15.9 %	%	%
実績に対する 自己評価	目標と比較して温室効果ガスの排出量平均値が減少している。引き続き今まで以上に節電対策を徹底したい。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置は以下のとおりである。

- ・ 照明の部分消灯実施、不要時消灯徹底、一部の照明にLEDを使用
- ・ 廊下等共用部分の空調温度調整
- ・ 温水洗浄便座の温め・温水機能の停止
- ・ 電気温水器の設定温度調整

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

- ・ 事務用紙使用量の削減・リサイクル実施
- ・ 廃棄物の分別の徹底・再資源化の実施
- ・ 水道使用量の削減取組の実施

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 中電病院
事業所の所在地	広島市中区大手町3丁目4-27
事業所の業種	一般病院
事業の概要	中国電力が運営する企業立病院。最先端のがん検査機能を持つPET-CTを有する。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4,114 t-CO ₂	4,032 t-CO ₂	4,042 t-CO ₂	4,098 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	1.8 %	0.4 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		4,032 t-CO ₂	4,042 t-CO ₂	4,098 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	1.8 %	0.4 %	%	%
実績に対する 自己評価	電気使用量は前年よりも抑えることができたが、重油の使用量は昨年に続き増加しており、温室効果ガス排出量は前年よりも増加した。引き続き節電対策に努めるとともに、ボイラーの効率的な運用方法を検討するなどし、重油の使用量についても抑えるよう努めていきたい。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

省エネ活動の推進・徹底によりエネルギー負荷の低減を図った。

- ・ボイラーの効率的運用(気温変化に応じた運転調整)
- ・不要な照明の消灯
- ・休日、夜間における電気機器の主電源OFF
- ・近隣階への移動時はエレベーターは使用せず、階段を利用
- ・設備更新時の高効率機器の積極的採用(一部LED照明を実施)

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況(環境価値の活用等)

特になし。

2 その他の取組の実施状況

- ・事務用紙使用量の削減・リサイクルに努めた。
- ・グリーン製品の積極的な購入・使用に努めた。
- ・廃棄物の再資源化率の向上に努めた。
- ・社員への環境教育を実施した。
- ・環境保全活動(清掃活動等)を実施した。
- ・水道使用時における節水を意識したこまめな止水を実践した。